

心身障害学系

教員数	教員等数 (人)	教授 15 (14)	助教授 16 (17)	講師 10 (10)	助手 3 (3)	技官〔準研〕 4 (4)	
	異動状況 (人)	退職・転出 2 (5)	昇任 1 (4)	採用 3 (5)	学内 -		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		185 (181)	15 (12)	139 (175)	19 (18)		
	受賞数	(1件)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	15 (14)	39.5 (36.8)	25,800 (27,800)		
		学内プロ	16 (13)	34.8 (29.5)	8,420 (7,850)		
奨学寄附金件数・金額		3件 3,000千円		(3件 2,500千円)			
受託研究件数・金額		2件 1,832千円		(件 千円)			
	受託研究員	人 (人)					
施設・設備							

・()は前年度の数値を示す。

1 心身障害学系の活動

平成14年度の重点目標は、(1)研究活動の促進、(2)研究の交流・連携・社会貢献の推進、(3)教官人事の円滑化である。

- (1) 研究活動のうち、外部資金の導入による項目では、全体として前年度よりも改善されているが、国内での学会発表数は減少している。教員の博士学位取得率は73.8%と徐々に向上している。
- (2) 研究の交流・連携では、障害附属4校との年2回の連携会議は定例化しており、また、外部講師(国外を含む)を招いた研究交流セミナーも2年目に入り、活発な議論が行われた。社会貢献では、心身障害教育相談を筑波キャンパスと東京キャンパスで行っていて、地域と親に対する貢献は顕著である。
- (3) 学系人事については、積極的に公募を行い、優秀な人材を獲得できた。

2 自己評価と課題

- (1) 研究活動については、学位取得率をいっそう高めるとともに、外部資金の申請率と採択率の向上、国内外での学会発表の増加、時代の変化に対応した研究の促進、外部に影響力のある研究の推進等、研究の高度化について、いっそう進めたい。
- (2) 学系人事については、これまで通り計画的で円滑な人事を行いたい。
- (3) 教育開発国際協力研究センター、障害附属4校、他機関との関係をより緊密にし、明確な成果を挙げられる体制を整備するようにしたい。社会的要請が高く、予約待ちが長期化している心身障害教育相談業務の改善を検討するとともに、近隣地域に対する社会貢献を具体化したい。